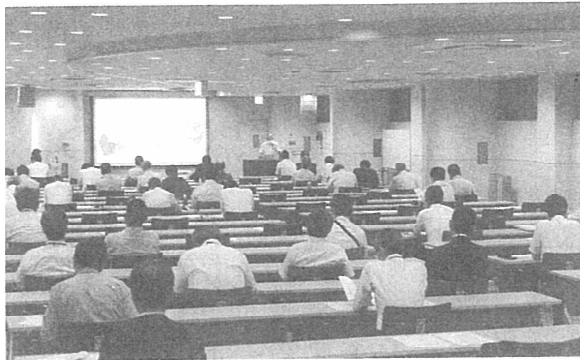


CAPDサイクルで適正管理を

管 診 協
GM工業会

管路マネジメントでセミナー開く



新たな技術や知見活用しストマネに反映を



山口課長



山崎会長



手嶋委員



野村技術委員



稲垣技術委員

GM工業会は手嶋泰三・クラウンドマンホール維持管理推進委員会委員が講演。マンホール蓋の維持管理が必要で、背景として、標準耐用年数が車道15年（その他30年）と短いにもかかわらず、150年間

管路診断コンサルタン協会は19日、日本クラウンドマンホール工業会と共催で「下水道管路ストックマネジメントの最適化」と題するセミナーを下水道展に併せて開催した。山口孝昭・神戸市建設局下水道部管路課長の基調講演に続き、管診協はマンホール点検用カメラ「管診鏡」、GM工

業会は「マンホール蓋のCAPDサイクル」をテーマに講演した。山崎義広・管診協会長（三水コンサルタン社長）の冒頭あいさつに続き、山口課長は「ストックのマネジメントは難しい」をテーマに、耐震や老朽化、不明水など複数の対策事業を組み合わせたバランス良くマネジメ

ントを行う難しさを強調。コンサル長、販売価格の概要と特徴、製品のラインアップと題し、製品の説明を求めた。管診協は稲垣裕亮・技術委員が「管

タントに対しては「事業体が蓄積してきた現場調査データとコンサルタンの豊富な技術的知見や計画策定ノウハウを掛け合わせ、現場の特色を反映したマネジメントの最適解を提案してほしい」などと改めて要望した。GM工業会は手嶋泰三・クラウンドマンホ

ル維持管理推進委員会委員が講演。マンホール蓋の維持管理が必要で、背景として、標準耐用年数が車道15年（その他30年）と短いにもかかわらず、150年間

サイクルのベースで交換され、現状や、下水道台帳に蓋の属性情報がなく、マネジメントが困難となっている課題などを指摘した。今後はIC

Tを活用して維持管理情報をデータベース化し、データを起点としたCA

PDサイクルを重要性を強調し